

5/18

中泊町再生可能エネルギー共創協議会が発足



再生可能エネルギー導入や地域利用の促進のため、脱炭素計画の管理や検証等を行う中泊町再生可能エネルギー共創協議会が発足され、協議会委員の委嘱状交付式が行われました。

委員には町関係者や地元団体、学識経験者から11名が選ばれ、再エネ収益を地域に還元する基金の活用方法などを検討していきます。

町長は「皆さんの専門性や経験が活かされる重要な会になる。当町の脱炭素化にかかわる計画の推進のために力をお貸しください」とあいさつしました。

5/19

自然災害の備えを ～下前自主防災会で訓練～

大雨や土砂崩れの被害を想定した避難訓練を下前自主防災会が実施し、上町・中町・浜町あわせて40人の参加者が防災意識の向上につとめました。

この日は災害が発生したとして、午前9時一斉にすくすく下前館に避難したあと、館内で中泊町社会福祉協議会から令和4年8月の豪雨災害時の状況やボランティアセンターの活動について説明を受けました。

最後は、遊びながら防災について学べるすごろくゲームや防災クイズを通して、知識を深めていました。



5/22

宮越家 春の公開が開始



国指定名勝(庭園)に指定されてから初となる宮越家離れ・庭園の春公開がはじまりました。

訪れた来場者は、ステンドグラス作家小川三知の最高傑作と称されるステンドグラス作品や、名勝となった庭園、今年7月に大英博物館所蔵の一連作品と並んで東京・大阪で展示されるふすま絵など、評価の高まる作品の数々を堪能しました。

初日であいさつした12代目宮越寛当主は「大正時代に作られたものばかり。ぜひ大正ロマンを感じてください」と歓迎しました。

5/29

生涯を町で元気に生きていくために

人口減少に伴う労働力不足の解消を図り、就労や活動の支援に取り組む中泊町生涯現役いきいき活躍プロジェクト協議会が、令和8年度の総会を行いました。

令和7年度の実績報告では、就労支援やハローワークと連携した地域支援、スマホセミナーなどの取り組みを説明しました。

また、5月からは新たに訪問型サービスB事業「ご近助サポーター」がスタートし、町長は「地域みんなで支えるという町の強みを伸ばし、誰もがいきいきと活躍できる町づくりのため、これからもお力をお借りしたい」と述べました。



6/1 ウスメバルの刺し網漁が解禁



津 軽海峡メバルの刺し網漁が解禁され、初日は町が誇る海の幸を求めて小泊・下前漁港からあわせて12隻が出漁しました。

午後9時頃、各船が帰港した漁港には、網にかかったメバルを手かぎ棒を使って丁寧に外していく姿が見られました。

初日の水揚げは平年を下回る量となり、漁業関係者は「ひとまず昨年並みの水揚げになってくれればいいな」と今後の漁に期待を寄せています。

6/3 はやく大きくなあれ!!

町 の若手農業者を中心に構成される「ばろかだる会」の大川さん協力のもと、中里こども園の園児たちが、町内の畑でサツマイモ植え体験を行いました。

畑にはイモの被り物をした「おイモの先生」も登場し、子どもたちにやさしく指導していました。

今年は「あまはづき」と「べにはるか」などのサツマイモを14名の年長組園児たちが、植えました。



6/9 町事業者が商品開発! 町産米の魅力を発信



野 上農園(野上拓幸代表)が、青森みちのく銀行の支援を受け開発した町産米の新商品を3月に発売したことを報告するため、町長を表敬しました。

開発したのは、地元の米を使用したおかゆ「白がゆ」「玄米がゆ」「梅がゆ」3種類と天日干し米「高嶺」「玉清水」の2種類です。

野上代表は「町のお米のよさをもっと多くの人に知ってもらうため、この商品を使ってPRしていきたい」と意気込んでいました。

6/10 豪華な給食に大満足! 給食にマツカワガレイ!?

中 里中学校の給食に、町が陸上養殖をすすめるマツカワガレイを使用した炊き込みごはんが提供され、生徒たちは脂がのったカレイのうまみに舌鼓を打ちました。

海の幸のおいしさを知ってもらおうと、中泊さかなプロダクツ協議会の協力のもと給食のメニューに町の実産物を毎年提供し、食育活動を行っています。

生徒たちは配膳後、マツカワガレイ養殖の経緯などについて説明を受けました。

日本海の海水で完全養殖したマツカワガレイは、適度な運動で身の締まりもよく、脂乗りがよいのが特徴です。

